

学校食育研究部

1 研究主題

「豊かな心とじょうぶな体で、たくましく生きる子どもの育成」
～自らの健康を考え、主体的に取り組める食に関する指導のあり方～

2 研究主題について

「食育」は、さまざまな教科・領域、および学校生活すべてにその切り口が存在し、多様な学習が展開される可能性を持っている。また、「学校給食」は、学校における食育の実践の場であり、望ましい食にふれる大切な機会である。

児童が自分の食生活に関心を持ち、「食事のあり方」に対する理解を深め、実践を通して「望ましい食生活」も身につけることは、生涯にわたって食の自己管理能力を育成することと深く関わっていると考える。

学校給食は、「食べる」という人間の基本的活動であると同時に学級集団として組織的な実践活動を通して、好ましい人間関係を形成する場でもある。児童が互いに協力し合っ
て給食の準備から後片付けまで自主的に行うことや、会食にふさわしい環境づくりをすることなどから、働く喜びを感じ取ることができる。

また、友達や教師と同じ場所で同じ食事をとることで、親密感や思いやりの心や仲間意識が生まれてくる。さらに、給食に携わる人々を理解することによって、食事ができることへの感謝の気持ちが培われ、豊かな心が育っていくと考える。

そのためには、児童の実態に即した的確な計画のもとに、「食に関する」知識を身に付けるだけでなく、知識を望ましい食習慣の形成につなげられるような具体的な活動を通して、実践的な態度を育てていくことが重要である。

そこで、各教科・領域、給食の時間等、あらゆる活動の有機的な連携をもって研究を進めていく必要があると考えた。

3 研究方法

(1) 専門委員会

○学習研究部

研究テーマに迫るために、日々の給食時間のみならず、時間割の学級活動の時間・各教科や道徳・行事・総合的な学習の時間等、あらゆる活動場面を指導の場として研究をした。本年度は、コロナ禍の給食指導の悩みを共有するために情報交換を毎月行い、給食指導の際に使える教材作りと模擬授業をセットにして、学べるようにした。

本年度は市研会員の募集方法や研究方法が大きく変更になったため、授業公開や実践提案などは、行わなかった。

第二次研究大会

緑区 三保小学校 吉村 勇希教諭 特別活動「はしイ～ナちゃんになろう」

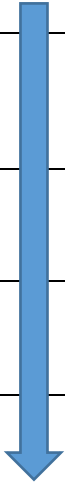
○資料作成部

本年度は、学習研究部とともに、教材作り模擬授業の準備を行った。また、市研だよりを作成して、毎月の招請状とともに会員に送った。

市小教研GIGAスクールプロジェクト担当者とともに学校食育研究会としてどのような活用ができるか検討した。

4 年間活動報告

月	日	内 容
6	10	企画会 今年度の研究の取組
7	1	本年度の研究の進め方について、 情報交換
9	9	学習研究部による資料紹介、教材作り
10	7	学習研究部による授業提案、教材作り
11	4	学習研究部による授業提案、教材作り
12	2	学習研究部による授業提案、教材作り
2	10	企画会
3	3	第二次研究大会（紙面）



5 研究の成果と課題

子どもたちの生涯にわたっての健康な心と体の育成をめざし、本年度もそれぞれの学校や学年・学級の実態に応じた題材での実践例を取り上げて、研究を進める計画をしていた。しかし、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策で休校や分散登校となり、給食のスタートが7月となった。そこで、本年度は各区、各校での給食の取組についての情報交換や改めて食育の授業の取り組み方を考えることとした。

新型コロナ感染症予防の対応をしながら、どのように給食に取り組むのかの情報交換では、配膳前の児童の机の消毒、トレイやナフキンの使用の仕方、配膳やお代わりの仕方、食器の片付け、牛乳パックの片付け方など、様々な意見や疑問点があげられた。安全に給食がすすめられるよう、細心の注意をはらっていることがわかった。

また、食育の授業をどのように進めたらよいか、より多く知ってもらえるように模擬授業を行った。授業の進め方だけではなく、授業のポイントやまとめ方などを考えることができた。合わせて、食育の授業で活用できる教材作りとして、バランスイ〜ナちゃんの団扇やパペット、カルシウムの授業で使えるカルシウム含有量を示す「カルちゃん」などを作った。教材は、授業だけでなく日々の給食でも活用できることを伝えた。

学校に持ち帰り早速実践した会員から、授業実践の成果の報告を受けたことで、食育の指導が学校生活の様々な場面で実践できることを知るきっかけとなった。

本年度の活動を基にして、来年度も多様な指導ができるよう、研究会から更なる発信をしていきたい。